



『十年目でやっと肩の力を抜いて演技できるようになりました。』

島田陽子(女優)

アメリカのTV番組「将軍」で一躍国際女優として認められ、大女優への道を歩みつづけている島田陽子さん。「自分の性格は一本気で情熱的肥後の猛婦の血を引いているのかもしれない。」とテレビで見せるクールな感じとは違った温かい口調で語ってくれました。

小学校三年まで熊本で過ごされたそうですが...
(島田) ええ。小さい頃は水前寺公園でよく遊んでおりました。忙しくて熊本には五年前帰ったきりですが、母も帰りがたがっていますし、そろそろ一度帰ってみようかと思っています。

— 小さい頃から女優になろうと思っていたのですか。
(島田) 三歳の頃からバレエを習っていました。将来の夢はバレリーナでした。

— どうして女優に...
(島田) 「流水占」というTVドラマのオーディションに応募しまして、一万三千人の中からヒロインに選ばれたのがきっかけです。その時の父役が二谷英明さん、母役が南田洋子さんで、本当の娘のように可愛がられ、女優を続けることを勧められました。

— 「将軍」の出演については...
(島田) 二十代後半を迎え、そろそろ役柄を変えていこうかという時期でしたし、番組も大評判だったということで、ラッキー続きでした。キャリア面でプラスになったことはもちろんですが、自分自身にとっても多くの外国の方とお会いでき、国際的な視野が広がりました。
— 英会話がお上手なようですが...
(島田) いいえ、あまり自信はないんです。

ですけど... 女優になってから個人指導を受けています。日常会話は支障ありませんが、「将軍」の撮影の際は発音を随分チェックされました。まだまだと思っています。
— 女優としていつも心がけておられることは...
(島田) 私のルーツです。自然がいっぱい残っていますね。素朴な



子供の頃、父親・妹と水前寺公園にて

(島田) 意外とそっかしいんですよ。お仕事が済んで、タクシーで帰宅中に足が痛くなって靴を脱いだんですね。そのまま寝てしまい、裸足で車から降りて家まで帰ってしまったなんてこともありました。
— 現在の熊本について一言。
(島田) いい所のイメージを全国に売り込んで欲しいと思います。

最後に今年の予定を。
(島田) NHKの大河ドラマ「山河燃ゆ」に出演します。太平洋戦争期に日本人でありながら祖国を知らずにアメリカに住み、祖国に憧れを持つ椰子の役です。日本とアメリカの間で悩ましい役に取り組みます。

くまとの風 告知版

薬物乱用を防止しよう。

覚せい剤事犯はますます悪質巧妙、潜在化の傾向が見られ、地域的にも年齢的にも広がりを見せています。
シンナー・接着剤の乱用も中学・高校生の乱用が増加し、小学生にまで広がっています。
人の身体や心をむしばみ、家庭を破壊し、社会に害悪をもたらす薬物乱用の防止のために、皆さんのご理解とご協力をお願いします。(薬務課)

第四回 熊本くだものまつり

今年も次のとおり盛りだくさんの内容で開催します。みなさんのご来場をお待ちしています。
〈とき〉二月九日(木)～十一日(土)
〈ところ〉岩田屋伊勢丹七階催場
〈内容〉果実品評会コーナー・新品種コーナー・即売コーナー・果樹園経営・家庭果樹相談コーナー・試食コーナー
(果樹園芸課)

熊本のこころの電話

あなたは、誰にも言えない事でも悩んだことはありませんか。
県精神衛生協会による「熊本こころの電話」が一月十日からスタートしました。家庭、友人、身体などの

昭和五十八年度 准看護婦試験

〈試験日〉三月八日(木)
〈場所〉熊本女子大学(熊本市健康町)
〈受験資格〉保健婦助産婦看護婦法第二十二条各号のいずれかに該当する者
〈受付期間〉一月二十六日(木)～二月二日(木) 郵送の場合は二日の消印有効

〈手数料〉二千四百円 (医務課)

昭和五十八年度 冬期労働大学

労働・経済問題等に関する専門家の講演を行い、労使関係の安定と産業の発展に寄与するために毎年夏・冬の二回開催しています。
次回は次のとおり。受講料は無料で、どなたでも受講できます。
〈とき〉二月十四日(火)・十五日(水)
〈ところ〉県福祉会館(熊本市手取本町)
〈演題〉今後の賃金動向と労使の対応 実践的リーダーシップ (労政課)

納税は 便利な口座振替で

個人事業税や自動車税の納税には、納期忘れのない口座振替制度をご利用ください。
支払いのための手間が省け、しかも現金を取り扱わないので安全です。最寄りの県事務所税務課・金融機関または自動車税事務所へお申し出ください。(税務課)

教育モニター 募集

政府の文教政策について広く意見を聞くための教育モニターを募集しています。
締切りは二月二十五日(土)です。
(教育庁総務福利課)

編集後記

●「くまとの風」装いを新たにしました県広報誌のタイトルです。「風」は、「新風」、「爽やかな風」、「みどりの風」、「熊本風(流)」などのイメージで、この様な「風」が熊本で、また熊本から全国といわず全世界に流れることを期待したものです。
サブタイトルの「緑コミュニティ」は、「緑のくまもと」の希望をこめました。関係者一同かなり頭をひねりました。
●今号から内容、体裁を改めましたが、県民の皆様にご覧いただき、愛される県民参加の広報誌づくりをめざします。ご意見、ご要望など、どしどしお寄せください。ご愛読を切に祈ります。

表紙説明

今回の撮影は、熊本商科大学写真部の方々にお願しました。「さわやかな風」をテーマに撮っていたので、キャンパス内でフルートを練習しているその表情は、まさにさわやか。やわらかな音色が風に乘って聞こえてきそうです。
今後、県内の写真愛好者のグループの方々にお願して、みなさんの発表の場にしていきたいと考えています。